

あすなろ

教育学部の近況



教育学部改組と今後の取り組み

教育学部長 戸塚 学

弘前大学教育学部同窓会会員の皆様、平素より教育学部の教育研究活動にご理解を頂くとともに、物心両面からの暖かいご支援、誠に有難うございます。冒頭ではあります。心よりお礼申し上げます。

さて、大学では平成28年度から始まる第3期中期目標・中期計画期間に向けての学部改革プランが出来上がり、現在新体制実現に向けて入試やカリキュラムの整理等、着々と準備を進めているところであります。そこで、今回の学部改革を中心に教育学部の近況もあわせてご報告させていただきます。

(教育学部改革)
教育学部は平成二十八年四月に学部改組を行い、生涯教育課程を廃止するとともに学校教育教員養成課程に初等中等教育専攻小学校コース・中学校コースを設けます(下図を参照)。今回の改組の目的は、ミッションの再定義に示した「青森県における義務教育諸学校に関する地域の拠点」の役割を担うための機能強化です。教育学

第37号

発行
弘前大学教育学部同窓会
相馬 正栄
所在地 弘前市文京町1
TEL 0172 (36) 2111 代表

部の改革のテーマは「確かな専門の力と実践的指導力を兼ね備えた地域から期待される教員の養成」であり、地域との連携・協働による「地域協働型教員養成」の推進、小学校教員養成に責任を持つ教育組織の導入、そして小・中一貫教育を視野に入れた教育カリキュラムの展開に取り組んでいきます。また、地域の教育力の向上に資するため、教育方法の研究開発や現職教員への研修機能の充実を図ります。

(地域協働型教員養成)
教育学部は、今後「地域協働型教員養成」を展開します。「地域協働型教員養成」の獨創性・新規性は、従来、学校教育の中に主に置かれていた教員養成を、大学と地域との連携協働活動で取り組みを行う「協働型」にすることにより、「教師力」「教育組織力」を高めることにあります。「地域協働型教員養成」では、学校や教育委員会を介した教育活動を積むことにより、学生のコミュニケーション能力や課題解決能力等をブラッ

(新)教育学部

シユアップし、大学内教育で培った専門の力を実践的指導力(現場で生きる教師力・教育組織力)に変換することを目指します。一方、地域の学校及び教育委員会にとっては、大学の人的資源を教育力の向上に活用できるというメリットがある。学校教育活動だけではなく、学校外教育活動を含む広範囲での連携協働が可能である。

(地域連携)
教育学部は、医学研究科とともに昨年三月二十五日、中南教育事務所管内の黒石市・平川市、藤崎町、大鰐町、田舎館村、各市町村教育委員会との間で、人材育成・教育に関する連携・協働を目的に協定を締結しました。なお、教育学部ならびに医学研究科は、すでに弘前市教育委員会との間でも同様の

(新)教育学部の方向性

○教員養成の質の保証

- ⇒ 確かな「専門の力」と「実践的指導力」を兼ね備えた地域から期待される教員
- ⇒ 自らの力量を自律的に高めていくとともに、様々な場面において他者と協働していくことのできる教員

青森県の教育に深い理解があり、青森県で活躍できる職務教育教員、特に小学校教員の養成
⇒ 青森県小学校教員採用の占有率の向上

○教員の養成・研修機能の充実

地域の教育力の向上に資する教員養成・現職教員研修機能の充実
⇒ 青森県および地域の教育委員会や教職大学院との連携による、地域の教育力の向上に資する教員養成及び現職教員研修機能の充実

改組後 170名

145名 学校教育教員養成課程

- 初等・中等教育専攻
- 小学校コース
- 中学校コース
- 国語専修
- 社会専修
- 算数・数学専修
- 理科専修
- 音楽専修
- 美術専修
- 保健体育専修
- 技術専修
- 家庭科専修
- 英語専修

特別支援教育専攻

20名 養護教諭養成課程

○学校教育教員養成課程に初等・中等教育専攻を新設

○生涯教育課程を廃止

改組前 240名

145名 学校教育教員養成課程

- 学校教育専攻
- 教育科学専修
- 発達心理専修
- 幼児教育専修
- 教科教育専攻
- 国語専修、社会専修
- 算数・数学専修
- 理科専修
- 音楽専修
- 美術専修
- 保健体育専修
- 技術専修
- 家庭科専修
- 英語専修

特別支援教育専攻

25名 養護教諭養成課程

70名 生涯教育課程

- 健康生活専攻
- 芸術文化専攻
- 地域生活専攻

連携協定を締結しており、これらの協定を礎に中南地区6市町村との間で「中南地区連携推進協議会」を組織しました。現在、この協議会のもとプロジェクトチームを設置し、地域の教育課題解決のための「健康教育推進事業」、「インクルーシブ教育推進事業」、そして地域の教育力へのサポートと学生の就職能力開発を目的とした「学生派遣事業」等を展開しています。

(教職大学院)
青森県教育委員会と連携し、平成29年度設置に向けて準備を始めています。教職大学院では、一、学部段階での資質能力を修得した者の中から、さらにより実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新任教員の養成、二、現職教員を対象に、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員等として不可欠な確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダー(中核的中堅教員)の養成を行います。また、実践的指導力の育成に特化した教育内容、事例研究や模擬授業など効果的な教育方法、これらの指導を行うにふさわしい指導体制など、力量ある教員の養成のためのモデルを制度的に提示することにより、学部段階及び修士課程など他の教職課程に対してより効果的な教員養成を実現します。

このように、教育学部は新たな一歩を踏み出そうとしています。同窓会の皆様におかれましては、これまでと変わらぬご指導ご鞭撻、そして、ご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。



教育学部とともに

同窓会長 相馬 正栄
(昭和40年卒)

子どもたちを取り巻く社会環境は、めまぐるしく変化し、子どもたちの健全な心身の成長に大きな影響を与えている。教育においても、伝統的な学校教育の仕組みや方法などが、社会の要求や変化に対応できなくなっているといわれてきたのは、いつの頃からでしょうか。はつきりとはしないが、その兆候は、すでに30〜40年前から始まっていたように思われる。

私は昭和40年に教員として採用されたが、当時の給料は安く、生活していくには大変な時期でした。それでも給料のことは関係なく、教育愛に燃えていました。大変楽しかった時でした。ところが、池田勇人氏の所得倍増論とか田中角栄氏の日本列島改造論とかが実行され、それと共に国民の経済状況は極端に改善され、我々教師の給料もまたたく間にアップして喜んだ記憶があります。その後、この経済問題が、家庭や地域社会では少子化、核家族化と変化し、学校教育の現場でも不登校、いじめ、校内暴力、自殺、学業不振などの様々な問題に発展し、今や大きな社会問題となったように私は考えているのです。すなわち、その時の経済問題がその時の社会状況に敏感に反応し、学校教育の現場にも影響を及ぼしたのではないかと考えるのです。結局そ

のことは、社会生活には物質的に豊かさはもたらしたが、反面子どもたちの生活は混乱し、心の問題として表れたのです。しかもこのような状況は、残念ながら未だ解決されず、現在も依然として続いているのです。

さて、昨年の六月、文科省は国立大学の人文社会科学系学部の改組をすすめ、教員養成も限られた大学以外は全部やめなさいという大方針を出しました。これは日本経済のためには、社会に出て直ぐに力となって働ける、理系の教育が必要だということでしょう。ここでも経済問題と教育が関係しているのです。

そういう中でも、我が教育学部は「地域から信頼される教師」を目標とし、学部長さんを中心に頑張っているところなんです。特に教育力向上のため、1年生から4年生



三の丸（ピクニック広場）にある「校舎跡地記念樹」とリニューアルした標柱

までの系統的な教育実習をはじめ、「Tuesday実習」や「学校サポーター実習」などは、他の大学では見られないすばらしい実践をしています。一方、文科省は学力低下の一因といわれる「ゆとり教育」を見直し、授業時数の増加、



教育学部特別教科(看護) 教員養成課程(特看)が果たしてきた役割

— 教育学部と特看への感謝を込めて —
青森中央学院大学看護学部 学部長 一戸 とも子
(昭和47年卒 一回生)

薄すぎる教科書の改善、学校週五日制見直し、小学校の英語教育など教師にとっては、より負担になるような心配が増えつつありますが、このような状況を皆さんと共に考えていきたいと思っております。

今年のねぶた祭りの初日にあたる八月一日(土)に、特看「同窓会」は37年間の活動に終止符を打ちました。この課程は、平成十六(二〇〇四)年三月に学内の改組により36年間の歴史を終えるまでに五十七名の卒業生を輩出しています。閉課程から約10年を経て、同窓会も閉会致しました。「特看」と同窓会については「あすなる第36号」をご参照ください(教育保健講座葛西敦子教授(10回生)。「私は「特看」卒業生」。この機会に、特看が果たしてきた役割の一端を紹介させていただきます。わが国の看護職養成機関は長らく専門学校が中心でした。昭和50年代まで看護系大学はわずか10校でしたが、特看はそのうちの1校になります。現在では看護教育の大学化が急速に進展し約二五〇校を数えます。

特看が果たしてきた特筆される役割として三点あげられると考えております。一つ目は、「学士(教育学)」と「看護師」の二つの資格を有する卒業生を輩出したことです。回生によっては看護

護が学問となるように努力しなければならぬ」と励まされた思いがあります。同窓生は、看護学の発展のためにも努力してきたと自負しております。

三つ目は弘前大学として看護教員養成という使命を、医学部保健学科看護学専攻において継続していることです。本専攻は、平成十二(二〇〇〇)年十月に、当時の医療技術短期大学部看護学科と特看が再編されて誕生しましたが、選択制として引き続き看護教員を養成しています。閉課程記念誌「三十六年の歩み」の中で、当時の教育学部長佐藤三三先生から、「不連続の連続」という言葉を贈っていただきました。まさに不連続の連続と言えるでしょう。八月一日には全国各地から約一〇〇名の方が駆けつけて下さり、残念ではありますが同窓会を盛会に閉じることができました。教育学部と特看への感謝とともに、同窓生のますますのご活躍、そして教育学部のますますの発展を祈って締めさせていただきます。

同窓会の歴史の概略

年月	主な事項
1968(S43)年 4月	弘前大学教育学部特別教科(看護)教員養成課程 発足 1回生入学
1977(S52)年 11月	同窓会発起人会(1~6回生の各回生1名、計6名)発足
1978(S53)年 3月12日	同窓会の発足。1~7回生:75名でスタート
1988(S63)年 8月 8日	看護教員養成課程設立20周年記念式典
2000(H12)年 10月 (2001年 4月学生募集)	看護教員養成課程と医療技術短期大学部が統合 医学部保健学科看護学専攻発足 看護教員は選択制
2004(H16)年 3月14日	看護教員養成課程閉課程記念式典
2004(H16)年 3月	最後の33回生が卒業
2015(H27)年 8月 1日	同窓会閉会総会(37年間の歴史に幕) 同窓生:正会員数537人



更なる飛躍

五所川原市立栄小学校 教諭 成田 拓真

(平成27年卒)

四月、小さな頃からの自分の夢であった小学校の教員として新たな一歩を踏み出しました。今現在は、四年生25名の学級担任として、毎日子どもたちと共に成長し続けているところですが、現場は、自分の想像したものとは違う世界でもあり、毎日が出会ったことのない新しいこととの連続の日々です。

教員生活をはじめ、慣れることが目標だった日々から自分の実践を振り返る時間や少しずつこれから先のことを考える機会も増えてきたように思います。そんな時、自分の教員としての原点は、自身自身のこれまでの学びにあるのではないかと考えるようになってきました。特に、自分が目指してきた小学校の教員へ向けて学びを深めた大学時代のことが頭に浮かびます。教育実習での子どもたちや先生方との出会い、同じく実習を経験し悩みを分かち合った仲間との思い出、そしてゼミの中で本気でこれから先の自分の人生を考えた瞬間…これらの学びが今の自分を創っていると思います。集中実習やサポーター実習で一年間を通して子どもたち、先生方と関わった経験は今でも大きかったと思います。拙いながらも実習生として授業をおこなったり、子どもたちとたくさん遊んだりすることを通して、自分の肌で学校現場に触



れ、自分の思い描く教員像を持つと同時に、課題も様々見つけてきたように思います。そう考えると、今、現場で働いていてもこれまでの学びの連続の中で生きていると感じるのです。だからこそ、学生として学んでいる時に常に様々なことに「挑戦」する意識が大切だと感じます。そして、これから先も常に刺激を受けながら、自身自身と向き合っていこうと考えています。

子どもたちの姿は、明日劇的に変化することはほとんどありません。教員になった私もこれからはいつぱい失敗することはあると思います。だからこそ、教員として振り返り、立ち止まり考え、次へ生かす「学び」を絶えず進めていく姿勢を大切にしていかなければならないと考えています。毎日が

すべて楽しいものでないかもしれませんが、子どもたちが一歩でも前に進んでいける、明日へと希望をもてる、そして何よりも仲間と学ぶことが楽しいと感じられるような学級づくりができるよう

平成二十七年年度

弘前大学教育学部・同窓会懇談会



平成二十七年十二月十日(木) 午後四時から弘前大学総合教育棟一階共用会議室(昔の教養部の建物)にて平成二十七年年度の懇談会が開催され、学部からは戸塚学部長はじめ十名の教員、総務グループ職員が、同窓会からは相馬会長以下三人の顧問、役員十六名が出席しました。自己紹介に続き、学部長、会長の挨拶がありました。

戸塚学部長からは新教育学部構想について説明がありました。「地域に根ざした教員の養成を目指す」そのために学部の改組を進める。具体的には「学校教員養成課程百五十名と養護教員養成課程

に絶えず「学び続ける」教員を目指す努力の日々を送っていきたいと思っています。これから先、多くの困難が待ち構える中でも「更なる飛躍」を目指して全力でぶつかっていこうと思えます。

二十名」にし、生涯学習課程は廃止したことである。そして方向性としては「特色ある入試の導入」「特色ある教育体制とカリキュラムの導入」「教員採用試験の支援や卒業後の地域支援」とし、具体的目標として学部は文科省に小学校教員の採用五〇%以上を約束しているとのこと、また、中南教育事務所を加えた中南地域の六市町村で中南地区連携推進協議会を組織して「健康教育」「インクルーシブ教育」「コラボレーション企画」に取り組んでいるとのことである。

次に平成二十九年設置予定の教職大学院の概要について中野副学部長から説明がありました。十六名の定員のうち学校勤務者から七、八名を県教委から推薦してもらい四十六名単位のうち十単位は学校実習に当てるとしている。県教委と連携してカリキュラムを考えているなど既設の大学院とは違う形になると説明をされた。

長南地域連携室長から地域連携について六市町村教育委員会が主体となつて地域コラボレーション

演習を行い、それに学生を派遣する形になるが、派遣の形態や交通費等問題もあり今後詰めていきたいとのことである。葛西敦子就職支援室長から学生の就職状況について説明がありました。教育学部の教職支援室では三名の教職アドバイザーを配置して教員を目指す全学部の学生を支援している、就職状況では青森県は採用数は増えているが競争倍率は高いこと、青森県公立学校の教員採用状況では平成二十八年度の正規採用数は二十七年とほぼ同じであること、その他大学院進学や公務員への就職等が報告された。



その後、場所をスクラムに移動し懇親会が行われ、学部の先生方との懇親を深めました。

平成 26 年度決算

Table with financial data for平成 26年度決算, including income and expense sections with columns for items, budget, actuals, and notes.

2,519,727円 - 2,223,851円 = 295,876円
残額295,876円は次年度へ繰り越します。

平成 27 年度予算

Table with financial data for平成 27年度予算, including income and expense sections with columns for items, budget, and notes.

平成二十七年年度の定時総会
平成二十七年年度の定時総会
平成二十七年六月六日(土)午後二時から弘前パークホテルにおいて、相馬会長以下二十五名の役員(会長、副会長、監事、各支部長、支部評議員、常任委員)の出席により行われました。



事業計画

- 1. 同窓会費納入
2. 平成 26 年度会計監査・事務局会議
3. 平成 27 年度総会
4. 同窓会・教育学部懇談会
5. 同窓会報「あすなる 37 号」発行
6. 弘前大学卒業式・祝賀会
7. その他

特別会計基金報告

平成 27 年 3 月 31 日現在
<青森銀行関係>
4,831,368 + 768 = 4,832,136 円
(利息)

平成 28 年度 庶務報告

- 1. 26 年 3 月 同窓会費納入依頼文書発送
2. 26 年 4 月 5 日 平成 25 年度会計監査会、事務局会議
3. 26 年 6 月 7 日 平成 26 年度総会 (25 名出席)
4. 26 年 7 月 1 日 教育学部へ支援金寄贈(会長、事務局)
5. 26 年 8 月 7 日 教育学部へ校舎改築記念のオルゴール寄贈
6. 26 年 11 月 27 日 同窓会報「あすなる 36 号」の原稿依頼
7. 26 年 12 月 11 日 同窓会・教育学部懇談会 (15 名出席)
8. 27 年 2 月 5 日 同窓会報「あすなる 36 号」印刷発注
9. 27 年 3 月 3 日 同窓会報「あすなる 36 号」各支部へ発送
10. 27 年 3 月 24 日 弘前大学卒業式・祝賀会(会長出席)

お知らせ

旧校舎記念樹と標柱
弘前公園内の教育学部旧校舎があつた場所に平成十四年、当時の金澤弘前市長、佐藤三三学部長、木村同窓会長の三氏により八重紅枝垂れの記念樹と標柱を立てました。現在五、六mくらいに成長しております。春にはきれいな花を咲かせ、弘前市公園緑地課職員が手入れをしてくれております。標柱の材質が木材のために根元が腐食しましたので垂鉛とプラスチックの材質で作りました。機会がありましたらご覧下さい。

- 1. 支部長 弘前・中郡支部 菅森 義男 (弘前市)
2. 黒石・平川・南郡支部 横山 岩雄 (藤崎町)
3. 五所川原・北郡支部 竹浪 誠也 (鶴田町)
4. つがる・西郡支部 内山 博文 (鯉ヶ沢町)
5. 青森・東郡支部 齋藤 キヨ (青森市)
6. 八戸・三戸郡支部 澤田 明久 (八戸市)
7. 三沢・十和田・上北郡支部 梅田 義一 (三沢市)
8. 弘大教育学部支部 葛西 敦子 (教育学部)
9. 弘大教育学部支部 福口 博昭 (十和田市)
10. その他の支部 対馬 浩二 (弘前市)



平成二十七年役員

- 1. 評議員 弘前・中郡支部 松田 千代治 (弘前市)
2. 黒石・平川・南郡支部 花田 幸三 (弘前市)
3. 五所川原・北郡支部 成田 徹夫 (五所川原市)
4. つがる・西郡支部 屋敷 政勝 (つがる市)
5. 青森・東郡支部 吉田 秀一 (青森市)
6. 八戸・三戸郡支部 高橋 信夫 (八戸市)
7. 三沢・十和田・上北郡支部 岩田 繁雄 (十和田市)
8. 弘大教育学部支部 藤田 幸三 (弘前市)
9. 弘大教育学部支部 平岡 恭一 (教育学部)
10. その他の支部 葛西 恒雄 (弘前市)